

地場産業・高専の連携強化を目指した ソーシャルプラットフォームの構築

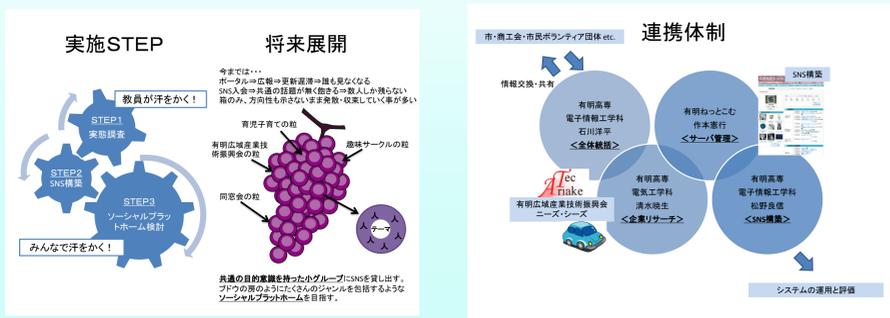
石川洋平(有明工業高等専門学校 電子情報工学科)
松野良信(有明工業高等専門学校 電子情報工学科)
清水暁生(有明工業高等専門学校 電気工学科)
作本憲行(株式会社有明ねっとこむ)

1. はじめに

(研究概要)

近年、mixi、facebook、twitterなどのSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)の利用率が年々上昇している。これらは「仮想空間上でのコミュニケーション」という枠を越えた新たな情報インフラとして注目されつつある。通常、SNSは、事業者が用意した単一のシステムを多種多様なユーザが利用する形が一般的である。しかし、これは東京などの大都市モデルである。

よって、本研究では、大牟田・荒尾地区に適した、「小規模グループへのSNS貸し出しシステム」の構築を行う。取り掛かりとしては、有明広域産業技術振興会を一単位としたSNSの試用を目指す。その後、他団体に水平展開で貸し出しを検討し、ソーシャルプラットフォームの構築を試みる。



2. SNSの現状

色々な種類のSNS



facebook

facebook
世界最大のSNS。実名重視で知り合い同士の写真の共有が特徴。



mixi

mixi
日本最大のSNS。匿名性が高く、様々なコミュニティが存在する。

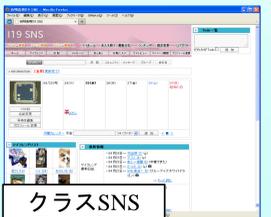


わいわいちっこ

わいわいちっこ・@おおかわ
筑後地域、大川市の地域SNS。地域の情報提供や、色々な方の日記が公開されている。有明高専電子情報工学科クラスSNS
クラス内でのコミュニケーションを図るために設置。緊急連絡網としても活用。



SNS@おおかわ



クラスSNS

3. RENKEI SNS

有明広域産業技術振興会専用SNS



ログイン画面：E-mailとパスワードが必要

機能：日記、スケジュール、ダイレクトメッセージ、コミュニティ機能によるグループ作成
※このSNSはOpenPNEを利用しています。

4. 携帯端末での利用

携帯電話・スマートフォンからも利用可能



携帯電話、スマートフォンからも利用可能です。
日記の書き込みや、各種メール通知機能もあります。

5. おわりに

地域SNSの将来像

本研究を通じて、有明広域産業技術振興会専用のSNSを構築した。現在、商用のSNSが乱立しており、匿名性やプライバシーの問題が顕在化しつつある。一方、地域SNSにおいては、参加者の確保や、継続性の点において大きな問題を抱えている。

SNSは本来、リアルコミュニケーションを補完するための匿名性の高いサービスである。有明広域産業の発展、産学連携という目的を共有した小グループでのSNS運用は「顔の見えるコミュニケーション手段」として有用であると考えている。

(補足)

近年、facebookが利用者を伸ばしており、グループ機能により、本システムを包括する可能性もあるため、今後の動向を静観する必要がある。

6. 利用案内

御試用は下記にご相談ください

<http://renkei.cc.ariake-nct.ac.jp>

有明工業高等専門学校
電子情報工学科 石川